

平成 27 年度 第 3 回武蔵野市環境市民会議 記録

日時 平成 27 年 10 月 22 日 (木) 18 時 30 分開会 20 時 00 分閉会

場所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 17 名、事務局 6 名、コンサルタント 1 名

(委員：田畑委員長、大江副委員長、飯沼委員、大作委員、力元委員、小玉委員、志賀委員、鈴木委員、中島委員、田崎委員、西上原委員、白田委員、羽島委員、花俣委員、三浦委員、村越委員 郡委員)

内容 1 武蔵野市第四期環境基本計画について

2 自由意見 (委員挨拶等)

1 武蔵野市第四期環境基本計画について

計画最終案に対する意見は出されなかった。

2 第四期環境基本計画の感想及び、第八期環境市民会議 (今回で期間終了) への感想

発言者	要旨
委員	本委員会に参加し、市の環境行政について勉強できた。環境方針 2 のエネルギーの地産地消については、今後もエネルギーのスマート化等、市と協力していきたいと考えている。環境学習についても、可能な範囲で協力していきたい。
委員	施設見学では、市の施策について改めて知る機会が得られた。弊社はビル管理と廃棄物運搬を行っており、廃棄物関係では 20 台程ある車両について、安全で効率的な運用に努めていきたい。
委員	パブリックコメントに関して、弊社 (ガス会社) の事業に参考になる部分が盛り込まれている。良い答申になったと思う。用語解説の修正として、コージェネレーションについて、「供給する」を「活用する」に、「熱利用効率が高く」を「総合エネルギー効率が高く」に変えていただきたい。
委員	私どもの活動 (クリーンむさしのを推進する会) に触れていただいたのはありがたい。境地域は踏切がなくなり、南北が一体化し激変した。コミセンは 3 地域融合の取り組みを始めている。桜堤の若い方々は、上水や境周辺の自然環境を気に入って住み始めたといい、私どもの活動に興味を持っている。3 地域が連携し、新しい人たちとコミュニケーションを交わしながら、環境面での達成につなげていきたい。
委員	事業者の役割に関して、エネルギーの効率的利用等について積極的に呼びかけているが、弊社 (横河電機) は従業員が何千人もいるので、今日ではできても明日はできなくなることもある点を痛感しており、きちんと推進していきたいと思っている。緑に関して、弊社構内に大木シンボルツリーに登録した樹木が 30~40 本ほどあったが、社内事情により手放したものもあり、社内から疑問の声を受けたことがある。これからはごみやエネルギーだけでなく、緑等の環境保全にも取り組んでいきたい。
委員	これまで環境の難しい用語がわからなかったので、用語解説でわかりやすくなった。ただ、「長期計画」がタ行でなくカ行の「基本構想・長期計画」とあったため、すぐに引けなかった。中学生の娘が「今は 3R でなく 5R だ」と言い、よく勉強していると思った。今回の計画は中学生にもわかりやすいレベルになっており、機会があれば子どもたちにも見せたい。
委員	自営でワインを扱っていて、環境の知識を広げたいと思い、応募、参加した。ここの委員だけでなく、一般の市民も地域の環境に関心をもってよく考えていることがわか

	<p>った。居住して5年の自分にとっても市のことを知る機会となり、スマートシティの将来像に好感をもった。</p>
委員	<p>私（井之頭小学校長）の学校は、都の愛鳥モデル校にもなっており、自然についての取り組みが進んでいる。計画の中では、小学校に関わることが多くあったため、副読本も見直したいと考えた。各小学校の屋上に太陽光発電があるのが、どう活かされているか、今後どう活かしていくかが教員や児童にまだ伝わっていないので、もう少し新たな取り組みが必要と思う。環境フェスタでは、夏休み自由研究の作品展示で参加した。また、生き物の講演の中で鳥についての話があったため、児童は楽しみにしていた。</p>
委員	<p>第三期とかなり違う議論となった。計画の位置付けについて、第三期までは地球温暖化対策法という大きなものと絡めて、国の温室効果ガス排出削減とリンクさせていたが、市民生活からは距離感があり、市が市民とともに何をやるのかがわかりにくいと思っていた。</p> <p>これまでエコシティだった環境像が、今回スマートシティになっている。エコシティはこれからも大事だが、時代は変わってきている。近年多くみられる異常気象は、市民が環境についてできることは何かを紐解く入り口だと思っている。計画は法律等で大上段に構えがちだが、市民会議の議論を踏まえて、今回は市民生活の視点に戻ることができた。市のフィールドで実感できる環境対策が重要であり、今後も市民の皆様から御意見、御知恵をいただければと思う。</p>
委員	<p>3つの重点項目やトピックスで、実施している様々な取り組みがよくわかる。私ども（成蹊大学）は、市と連携した取り組みを多々行っており、例えば資料編にあるヒートアイランド現象の調査がそれにあたる。今年もグリーンカーテンを大学で実施する等、市をフィールドとして活動している。今後も大学として地域に貢献していければと考えている。</p>
委員	<p>武蔵野市にはJRの駅が3つもあり、他からうらやましがられる街である。行政としても恵まれているが、裏側にはごみ問題がついてまわってきた。一人あたりのごみの量は、目標を達成しつつある今でも、多摩地域の平均よりも多い状況が続いている。商業者がごみに関心を持つようになり、まちがきれいになってきた。このような計画書が完成してよかったと感じる。ごみ問題は永遠に続くので、これからもよろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>私ども（コミュニティ研究連絡会）は、市内のコミセンの連絡会を毎月1度行っている。地域の懇談会で、安心安全のためのまちなみウォッチング（パトロール）を行い、市へ報告したところ、防犯・防災・美化の成果があった。また、井の頭通り街路樹のポイ捨て対策のために、都の建設局の助成金を活用した草花の植栽活動を行った。その際PTAのボランティアの協力も得た。このような活動では、都・市等、どこに相談すればよいかわかりにくいので、横のつながりのある窓口があるとよい。今後、環境面においてコミセンに何を期待するのかを市民活動推進課へ伝えていただければと思う。</p>
委員	<p>第三期よりもストーリー性があったため頁がめくりやすくわかりやすい内容になった。学校ビオトープが生き物の生息場所になっているので、今後も充実させると市の生き物の環境がよりよくなっていくと思う。</p>

委員	環境という言葉に観念的にふりまわされない、生活の面から確かな消費者を育てていくことが、私ども（消費者運動連合会）の大事な役目と考える。情報提供について、武蔵野市全体でどのように取り組んでいくかが課題である。資料編がわかりやすいものになってよかった。子どもたちへの環境教育は、ごみだけではなく、この計画にあるような内容をみんなが考えていることを切り口にした冊子ができると嬉しく思う。
委員	キロワットとキロワットアワーの違いは、どのようにつながっているのかがわからない人も多いので、わかりやすく示せるとよい。 第三期計画の評価が、第四期計画へどのようにつながっているのかが見えない。これからどのように定量的にチェックするのか、イメージされていないように感じる。
副委員長	自分が関わってきたごみ関係の議論に比べて、環境はポジションが多様かつ問題が広範囲に及ぶため、自分の関心の部分だけでなく、広く勉強しなくてはならない。調整が難しい。亜細亜大学の近辺がようやく便利になったが、まちづくりには時間がかかり、コンセンサスをとりながら一つひとつ積み重ねていかなくてはならないということ強く感じた。武蔵野市としての環境を見ていくのが大切だと、勉強させられた。
委員長	基本計画は先を見ようとするが、状況も刻々と変化していく。例えば、近年三駅周辺の状況は大きく変化している。本計画がどのような方向で成果を見るのかは、はっきりと断定できないが、次の若い世代が引き継いで武蔵野市の環境づくりを行うことになる。考え方は、基本的に変わらない面もある。市民会議委員の皆さんには、このような議論があったということ、時々思い出していただければと思う。
事務局	欠席の委員からのメッセージを紹介する。「多くの課題があつて大変だった。すぐに成果が出ないものもたくさんあることも認識した。市民会議での取り組みを地域に展開できたらよりよいと思う。これからもこのような活動に参加したいと思う。」